

野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会 設立趣意書

野洲川は古来より「近江太郎」と呼ばれる暴れ川で、度重なる洪水による氾濫により甚大な被害を受け続けてきた。昭和 52 年に「野洲川放水路」が概成し、洪水に対する安全度が格段に向上し、社会環境の変化とともに、野洲市は発展を遂げてきた。

しかし、近年においては、人口減少や少子高齢化の急速な進展をはじめ、激甚化する水災害への対応等の社会環境を取り巻く情勢が大きく変化しつつある。

かつては暴れ川であった野洲川の北流（現北流側帯）において、災害時には、緊急復旧活動や水防活動を迅速に行うための拠点となり、平常時には地域の活性化や賑わいを創出する「MIZBE ステーション」の整備を進めていく。また、河川空間とまち空間が融合した新たな河川空間を活用した地域の賑わいを創出する「かわまちづくり計画」を策定し、整備を進めていく。

また、「次代の社会を支える高等専門人材の育成」及び「技術者育成・交流のハブとしての地域産業・社会への貢献」を設置目的として、野洲川の北流側帯に隣接し、「滋賀県立高等専門学校」の整備が進められている。

そのため、野洲市が国土交通省と連携して推進する「かわまちづくり」（MIZBE ステーション含む）と、滋賀県が推進する「滋賀県立高等専門学校」が一体となった空間形成となるよう、国・県・市が連携・調整を図る。

これらの社会基盤整備により、水辺空間を活用した未来へと繋ぐ持続可能な社会づくりと人づくりの思いを込め、地域の様々な主体と協働するため、本協議会を設立する。